



街角レポート

茨城県都市計画協会では、11月18,19日に、バリアフリーのまちづくりが行われている神奈川県藤沢市の湘南台地区と、歴史を生かしたまちづくりが行われている箱根町の箱根関所地区を視察しました。

藤沢市 湘南台「人にやさしいまちづくり」

藤沢市は、東京から50km圏内で横浜市の西に位置しており、人口が約38万人の都市です。

湘南台地区は、市の北部に位置し、地区中央には小田急線が南北に走り、また横浜市営地下鉄と相模鉄道が湘南台駅に乗り入れしており、駅を中心に商業の活性化や土地利用の高度化がなされています。現在、人にやさしいまちづくりを目指して、この地区についてバリアフリー化を進めているところです。

このコーナーでは、県内外のまちづくりやちょっと素敵なまちなかのお店や施設などをレポートし皆さんにご紹介します。



写真1 湘南台駅の様子



写真2 スムース横断歩道

・コミュニティー・ゾーン形成事業

地区南西部に位置する湘南台2丁目地区において、地区在住の住民や商店街の方々の参加によるワークショップ方式でバリアフリー化の計画がまとめられました。

左の写真は、そのバリアフリー化された例です。「スムーズ横断歩道」は、交差点内の横断歩道を歩道の高さと同じにしたもので、高齢者や障害者などが横断しやすくすると同時に、横断歩道がハンプ(こぶ)となり車のスピードが抑えられる効果があります。



写真3 連続波形舗装とイメージ舗装

「連続波形舗装」は、写真では見づらいのですが、舗装が波形となっており車のスピードが出にくくなっています。また、道路の両端に「イメージ歩道」が設置されており、L型の側溝を撤去しこう配を緩やかにして歩行者が歩きやすいようにしています。当初、イメージ歩道には色の濃いカラー舗装を予定していたそうですが、ワークショップで住民から落ち着いた色にして欲しいとの要望から写真のとおりとなっています(分かりづらくてすみません)。

このように、湘南台地区では、住民と一緒に考えながら、高齢者や障害者をはじめ、すべての人にやさしいまちを目指して、まちづくりを進めています。

箱根町 箱根関所地区

箱根町は、東京の西約80kmに位置し人口が1万5千人の小さな都市ですが、「富士箱根伊豆国立公園」の中にあり観光地として有名です。

箱根関所地区は、芦ノ湖のほとりにあり、江戸時代には関所や宿場町が存在した歴史・文化的に意義のある地区です。現在、まちづくりや観光の活性化の拠点として、以下の事業などの整備を進めています。

・街なみ環境整備事業

国道1号(旧東海道)沿道で、昔、宿場町として栄えた地区について、住民の発意による「箱根地区街なみ協定」に基づいて、建築物を“現代に生きる和風”という視点で整備し、統一的魅力ある街並みを形成するまちづくりが進められています。

・箱根関跡保存整備事業

現在、国指定史跡である箱根関跡について、当時の大番所等の建物や周囲の構造物を復元しまちづくりに活用しようと文化庁の補助を受け進められているのが、この事業です。私たちが視察したときは、復元工事の真っ最中でした。平成19年春には完成する予定です。

(編集委員 M.N)



写真4 整備中の様子

のむら 土浦の「まちかど蔵・野村」

江戸時代より土浦の商業の中心地として栄えた中城通りに、10月20日、土浦まちかど蔵「野村」がよそおいを新たにオープンしました。

旧水戸街道の宿場町として発展してきたこの界隈で古くから続く商家であった野村家が、建物を市に寄附し、市が建物の外観整備、改修を行ったものです。

母屋と3つの蔵からなっており、はた織りや草木染めなどの創作活動が体験できるカルチャー室や、民俗資料の展示室、そば打ち等体験工房、レンガ蔵の喫茶室などがあります。歴史的商家建築物としての「伝統」と「威厳」を引き継ぎつつ、「野村」は市民の体験・交流活動の拠点として賑わっています。

通りを挟んで向かいには、土浦まちかど蔵「大徳」があり、観光物産館、観光展示館、商家歴史展示館を有し、観光情報の発信地としての機能を果たしています。

周辺は亀城公園をはじめ、県指定文化財「矢口家住宅」、神社仏閣などの江戸情緒を残す名所が集積しています。

あたりを散策しながら、両蔵に立ち寄り、江戸時代の商都の歴史に想いを馳せてみてはいかがでしょうか。

土浦市中央1-3-16 0298-24-2810

(土浦市観光協会内)



上 土浦まちかど蔵「野村」

下 土浦まちかど蔵「大徳」

歴史の再生を象徴する建物から、新しい街づくりへの鼓動が聞こえて来ます。